(GEISENHEYNER)[1], あかすぐり *Ribes rubrum* L. (VUILLEMIN)[2] ニモ上面盃狀葉ガ知ラレテ居ル。

雜錄　Miscellaneous

○さつまくまたけらんノ名ハ不要デアル

Alpinia satsumensis GAGNEPAIN in Bull. Soc. Bot. France 4-ser. II: 247 (1902) トイフモノガアル。薩摩デ 1887 年ニ採集サレタ標本ヤ 1889 年巴里博覽會ニ出品サレタモノデ記載サレタノデアルガ、ソノ記載ハ花ダケデアル。一方くまたけらん *Alpinia Kumatake* MAKINO ハ紀州ノ産デ書カレタガ奇シクモ同年ニ發表サレ、又同ジク花ノ記載ダケデアツタ。兩方ヲ比較シテ見ルト彷徨變異ノ範圍內デ差ガアルノミダカラ同一種ト考ヘラレルガ、コノ事ハ既ニ早ク Pflanzenreich 中ニ Zingiberaceae (1904) ヲ執筆シタ K. SCHUMANN ガソノ p. 342 デ述ベテ居ル。然モ彼ガコノ兩種ヲ並ベテ記述シタノハコノ本ヲ書イテシマツテカラ牧野先生ノ發表ヲ知ツタカラダト斷ツテ居ル。ソコデワザワザ和名ヲ作ルノ要モナク、コレハくまたけらんノ異名ト扱フベキモノトイフコトニナル。猶くまたけらんハげつとうニ甚ダ近イガ、花穗ハ直立シ、ソノ穗軸ハ無毛デ、後者ノ有毛ニシテ懸垂スルノト異ナルトイフ。果實ノ時ニ果シテドウデアルカハマダ知ラナイ。誰方カソレヲ御存知ノ方ハ御敎示ヲ頂キタイモノデアル。　　（前川文夫）

○ぎぼうしらんノ花色

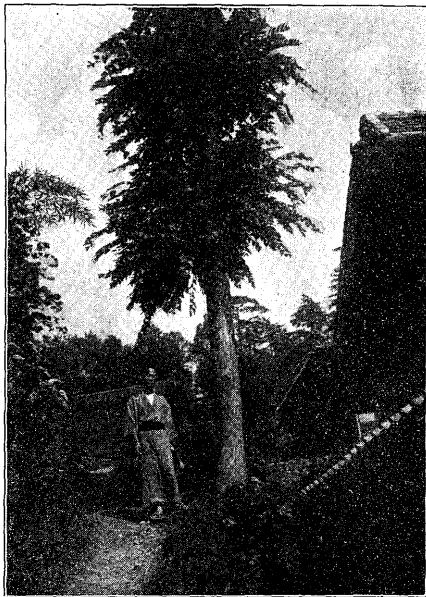
Liparis auriculata BLUME ニツイテハサキニ本誌デ觸レタガ脣瓣ノ色ハ白色トダケ記シタ。其後肥前多良岳ノ產品ヲ F. C. GREATREX 氏カラ原寬君ノ處ニ送リ引キツヾキ同君ガ栽培シタモノガ開花シタガ、脣瓣ハ微黃綠地デ中央ノ帶狀部ハ濃褐紅色ヲ呈シテ居タト昨年聞イタ。今年結城嘉美氏ガ羽前、吾妻山麓ノ白布高湯デ採ラレタガ、ソノ標本ニ添ヘタスケツチニハ脣瓣ハ綠色地ニ黑紫色ノ帶ガ中央ニアルト記サレテ居タ。ぢがばちさう等ノ花色ニモ相當ノ變異ガアル樣ニコノ程度ノ變化ハアルモノト見エル。因ニ結城氏ノ採集地點ハ北限ノ樣デアルガ、ズツト北方迄ソノ產ガ期待出來サウデアル。　（前川文夫）

○奈良縣ノへらのきト其形態ニツイテ

へらのき (*Tilia kiusiana* MAKINO et SHIRASAWA) ハ九州各地（日向・豐前・豐後・筑後・肥後等）・四國西部（伊豫）ニ產スル暖地性植物デ尙本州（中國ノ一部）ニモ之ヲ產スルコ

1) Ber. d. D. Bot. Ges., **21**, 1903, pp. 443-447.　2) Bull. Soc. Bot. Fr., **54** 1907, p. 583.

トガ記サレテキルガ、コレ等ノ地方カラ遠ク隔ツタ奈良縣ニ產スルコトハ未ダ一般ニ知ラレテキナイノデ同地方ニ於ケル本植物ノ生育狀態ト其形態トニ就イテ述ベヨウト思フ。

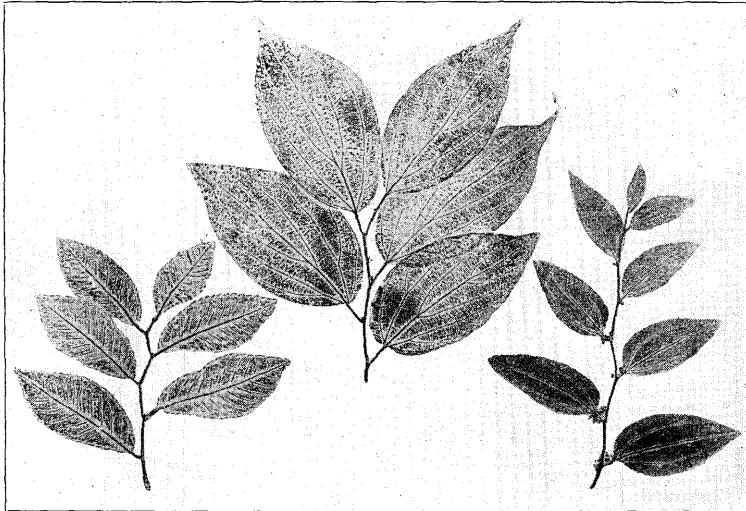
奈良縣ニコノ植物ノ生育スルコトハ昭和九年其當時奈良縣立五條高等女學校教諭デアツタ今西岩太郎氏ニヨツテ其鄉里同縣宇智郡北宇智村大字出屋敷字垣內ニアル俗稱とくをのきがへらのきデアルコトヲ注意セラレタ。同地ニ於イテハ人家附近特ニ竹藪ノ周圍等ニ生ジ、大小二十數本アツテ其最モ大ナルモノハ目通リ 1 米、高サ約 7 米位（ソレヨリ上ハ切斷セラレテキル）デアル。コノ場所ニ於ケルモノハ生育ノ狀態カラ見テ自生デアルカ又ハ栽植セラレタモノカガ明デナイ。元來コノ植物ハ九州地方デハ其樹皮ノ靱皮纖維ガ强靱ナ爲メ同科ノしなのきト同ジヤウニコレヲ利用シテキルガ、コノ地方ノ人ハ別ニコノ植物ノ利用法ヲ知ラナイ。又コレガ栽植サレタ模樣モナク尙後述スルヤウニコノ附近ニ更ニ本植物ノ他ノ生育地ノアルコト等カラ見テコノ地方ノモノモ自生ト見ルベキデハナカラウカ。

第 1 圖　奈良縣宇智郡北宇智村大字出屋敷字垣內ノへらのきノ大木ト今西氏（昭和十年八月撮影）

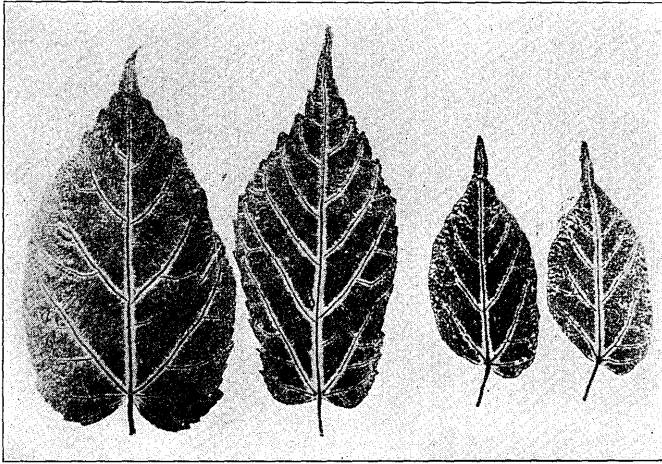
其後昭和十年八月筆者ハ奈良縣女子師範學校教諭石原重次氏ト共ニ同縣同郡大阿太村大字東阿田字佐名傳ノ吉野川沿岸山林中ニ本植物ノ群生地ヲ見出シタ。コノ地ノへらのきハくぬぎ・こなら・ならがしは等ノ雜木林及ビすぎ林內ニ數十本生育シ、何レモ薪炭材トシテ他ノ樹木ト共ニ伐採セラレテ切株ヨリ多數ノ新幹ヲ生ジ大ナルモノハ切株ノ周圍約 2 米ニ達スルモノモアルガ、新幹ノ高サハシバシバ伐採セラレル爲ニ一般ニ甚ダ低ク、近年伐採ヲ免レタモノモ高サ漸ク 6 米位ニ過ギナイ、然シ其切株ノ太サカラ見テ其年代ハ相當古ク伐採前ニハ見事ナへらのきノ群落ヲナシタモノデ、附近ノ狀態カラ見テ恐ラク自生セルモノト考ヘラレル。尙更ニ詳シク調査スレバコノ附近ノ他ノ地方ニモコノ植物ノ生育地ヲ見出シ得ルモノト信ズル。

へらのきノ葉ハ卵形デ銳尖頭、基脚ハ稍心臟形、細鋸齒緣ヲナスガ、通常著シク左右歪形デアル。木本植物デ歪形ノ葉ヲ有スルモノニハしなのき科・にれ科・くろうめもどき科・殼斗科等デアツテ、特ニしなのき科・にれ科ノ大部分ニハ明カニ歪形ガ認メラレル。コノしなのき科デハしなのき屬ノへらのきガ特ニ著シク、其他ぼだいじゆ・しなのき・おほばぼだいじゆ等ノ何レモ多少ノ歪形ヲ呈シテキル。又にれ科デハえのき屬ノえのき・えどえのきガ著シク、にれ屬ノあきにれデモ顯著デ同屬ノはるにれ・あつにれ等モ多少ノ歪形ヲ呈スル。其

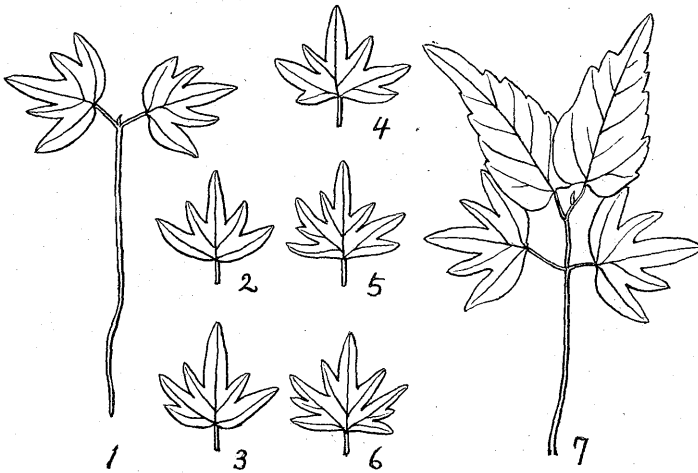
他むくのき屬ノむくのき、けやき屬ノけやきデモ僅ノ歪形ヲ示ス。くろうめもどき科デハなつめ屬ノなつめが著シク、其他けんぽなし屬ノけんぽなし、はまなつめ屬ノはまなつめデモ相當ノ歪形ガ見ラレル。殼斗科デハ其現象ハ著シクナイガ、ぶな屬、しひ屬ノ植物及ビ若干ノかし屬ノ植物ニハ稍歪形ノモノガアル。

一般ニ之等ノ葉ノ歪形ノ起ルノハ直立シタ枝ニ着イテヰル葉デハ見ラレナイノデ、斜上又ハ横出シテヰル枝ニ於テノミ見ラレル現象デアル。へらのきニ於テモ實生ノ苗ヤ老成シタモノデモ切株カラ新ニ生ジタ直立シタ枝ニ着イテヰル葉ハ何レモ正形

第2圖　へらのきノ枝ノ一部

第3圖　歪形ノ葉ヲ有スル植物ノ枝（左）あきにれ（中）えのき（右）なつめ

デ左右相稱ヲナシテヰルガ、本植物ノ枝ハ一般ニ斜上又ハ横出シ易ク、從ツテ葉ハ通常歪形ヲ呈シ、特ニ横出シタ枝ニ於テハ其歪形ノ程度ガ著シイ。斯樣ニ斜上又ハ横出シタ枝デハ一般ニ前記ノ大本植物ノ何レモ多少ノ歪形ヲ示シ、而モ葉ハ皆枝ノ先端ニ向フ側ノ基脚ガ膨出シ、枝ノ基部ニ向フ側ハソレガ狭窄シテヰル。斯樣ニへらのき其他コレ等ノ大本植物ノ

第4圖　へらのきノ葉直立シタ枝ノ葉(右)横出シタ枝ノ葉

葉ノ歪形ヲナスノニ一定ノ形式ガアルノハ何等カ此現象ノ起ルノニ特殊ナ生理的原因ノアル事ヲ暗示スルモノト考ヘラレル。

コノ生理的原因ガ果シテドンナモノデアルカハ玆ニ斷言スルコトハ困難デアルガ枝ノ斜上又ハ横出シタ場合ニノミ起ルコトカラ考ヘテコレ等ノ枝ノ成長點ニ及ボス地球ノ引力、從ツテ其部分ノホルモン或ハ養分ノ關係等ニ原因スルモノデハ無カラウカ。

第5圖　へらのきノ實生　(1)實生全形(2)-(6)種々ノ形態ノ子葉　(7)正形ノ本葉ヲ生ジタ實生

次ニへらのきノ實生ノ形態ニツイテ觀察スルト其子葉ハ全體廣卵形又ハ廣心臟形ヲ呈シテ通常五中裂シ時ニ六乃至七中裂ヲナス。斯様ナ子葉ノ形態ハ他ノしなのき屬植物ニモ見

ラレルガ、其他ノ一般ノ植物＝ハ極メテ稀ナ形態デアツテ同屬植物＝見ル特殊ナ形態トイフコトガ出來ル。(久米道民)

(附記) 前記へらのきノ自生地宇智郡大阿太村＝近ク吉野郡大淀町字薬水ノ濕地＝ハさぎすげ (*Eriophorum gracile* KOCH.) ヲ產スル。コノ植物ハ樺太・北海道・本州(北中部)＝產スル寒地性植物デ田代善太郎氏＝ヨレバ近ク三重縣(伊賀國)＝ハ二三ケ所ノ自生地ガアルトノコトデアツテ分布上聯絡ヲ保ツテヰルガ、コノ奈良縣ガ恐ラク本植物ノ南限自生地デアルト思フ。兎＝角一般＝暖地性植物＝富ンダ奈良縣中部＝カヽル寒地性ノ植物ヲ見ルコトハ分布上興味アル問題デアル。奈良縣ノさぎすげ自生地ハ昭和9年前記今西氏及ビ堀木利博氏＝ヨツテ發見セラレタ。

終＝へらのき及ビさぎすげノ分布＝ツキ教示セラレタ田代善太郎氏並＝現地ノ案内等ノ便宜ヲ與ヘラレタ今西岩太郎・堀木利博兩氏＝衷心ヨリ謝意ヲ表ス。(久米道民)

○邦產いはべんけい屬

いはべんけい屬 (*Rhodiola* L.) ハ、肉質ノ多年生根莖ヲ有シ、ソノ頂部ハ鱗片狀ノ葉＝包マレ、ソレカラ一年生ノ花莖ヲ出シ葉ヲ互生シ頂＝花序ヲ着ケ、通常雌雄異株デ、花ハ往々四數カラナリ、蒴果ハ直立シテヰルノデ、べんけいさう屬 (*Sedum* L.) カラ區別サレル。本州ノ高山＝ハ明カ＝別種ト見做サレル二種ガアル。一ハいはべんけいデ、全株多少粉白ヲ呈シ、葉ハ概ネ倒卵形デ先端ハ短鋭頭、上半＝不明瞭ナ疎齒ガアリ基脚ハ圓ク多少莖ヲ抱イテヰル。他ハほそばいはべんけいデ、全體帶黃綠色デ生時一見シテ前者ト異ナリ、葉ハ廣倒披針形乃至線狀倒披針形デ上半＝ハ鈍鋸齒時＝缺刻狀鋸齒ガアリ、小乳頭狀突起ノアル粗糙デ明瞭ナ緣邊ヲ有シ、基部ハ楔狀＝細マツテヰル。いはべんけいハ本州中部ノ高山＝普通デ立山劍岳・白馬岳・鷲羽岳・八ケ岳・北岳・荒川岳・鹽見岳・農鳥岳・聖岳・木曾御岳・淺間山・戶隱山・早池峯山等＝アリ、更＝北海道、袴腰岳・夕張岳・蝦夷富士・北見ポロヌプリ等ノ標本ヲ見タガ、歐洲產 *Rhodiola rosea* L. ノ基本形ト區別シ難イ樣デアル。FRANCH. et SAV. ハ淺間山ノ標本＝基ヅキ *S. Rhodiola* var. *Tachiroei* ヲ記載シ、"Folia ...... ovato oblonga integra vel apice repando crenulata, marginata, semiamplexicaulia" ト書イテヰル。"marginata" ノ語ハほそばいはべんけいデハナイカト思ハセルガ、他ハいはべんけい＝一致シ、又淺間山＝ハほそばいはべんけいハ產シナイ樣デアルカラ、矢張リいはべんけいノ一形ト見ラレル。併シ FRÖDERSTRÖM ガ Berlin＝アル Cotype カト思ハレル標本ノ寫眞ヲ示シテヰルガ、コレハほそばいはべんけいラシイノデ、或ハ兩者ヲ混合シテヰルノカモ知レナイ。ほそばいはべんけいハ *S. elongatum* LEDEB. 卽チ *S. Rhodiola* var. *elongatum* MAXIM.＝當テラレテヰルガコレハ誤デアル。*S. elongatum* ノ原記載＝ヨルト "Folia......basi et apice sæpius æquilata vel basin versus latiora, nec obovata, plerumque integerrima, ..." トアリ、ほそばいはべんけいト全ク異ナリ、いはべんけい＝近イ。樺太ヤ利尻島・北朝鮮等＝アツテ屢々ほそばいはべんけいト混同サレ、同ジク *S. elongatum* ト呼バレテヰルモノガアル。コノ方ハ眞ノ *S. elongatum* ＝最モ近ク、唯多